

扇子の魅力



皆さんは、扇子を知っていますか。

扇子は、日本にとって夏を越すためにいる大切なものといえます。扇子は、うちわと違って折りたためて持ち運びが凄く便利です。ですが僕はそこが扇子の魅力では、ないと思います。そのことを三つ紹介します。

一つ目は、扇子の歴史です。扇子は、現存する最古の扇は、元慶元年(げんけいがんねん)877年と記された、京都・東寺(とうじ)にある千手観音像(せんじゅかんのんぞう)の腕の中から発見された桧扇(ひおうぎ)です。故事(こじ)では天長(てんちょう)年間(824~833)に建立(こんりゅう)された御影堂(みえいどう)で滅亡(めつぼう)した平家(へいけ)の玉織姫(たまおりひめ)が寺僧(じそう)と共に租扇(そせん)(阿古女扇・あこめおうぎ)を作ったのが京都における扇子の発祥(はっしょう)とされています。うまれた場所は、京都です。

二つ目は、扇子の見た目です。見た目の良さは、模様が夏という季節を表してくれる見た目、そして明るい色で涼しくしてくれる華やかさが、見た目の良さです。

三つ目は、色合いです。扇子は、たくさんの色の扇子があります。主に扇子は、内側が薄い色で外側が濃い色です。それに合わせて模様の色などを決めてたくさんの種類の扇子ができます。

このように、扇子には、数多くの魅力と工夫で日本にとって大切なものといえるような心があるのです。扇子は、日本にとって価値のあるものです。